

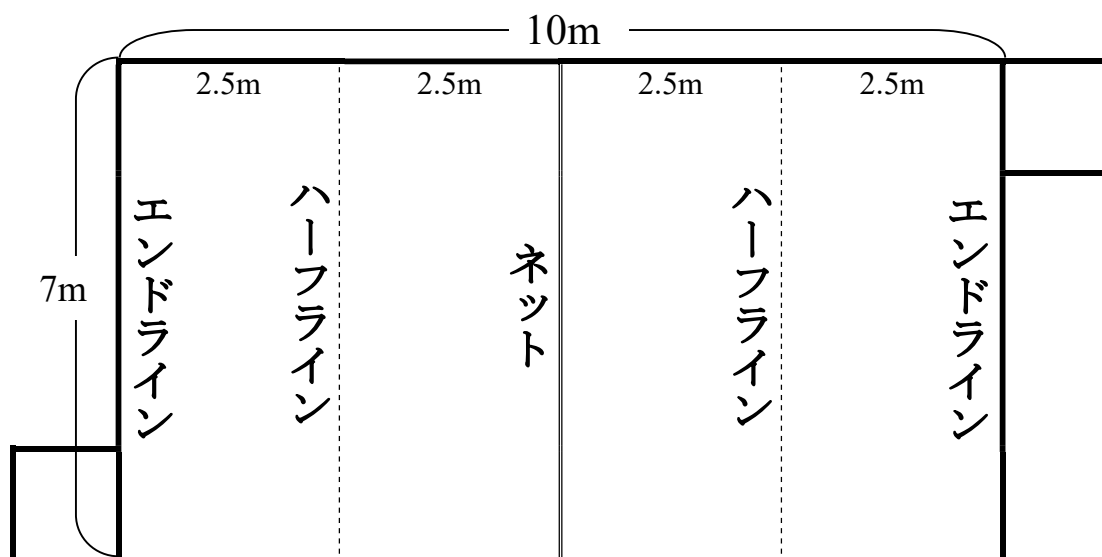
令和8年度夏季家庭バレーボール交流大会競技規則

(東由利地区6人家庭バレーボールローカルルール)

～秋田県スポーツ推進委員連絡協議会制定8人制バレーボール競技規則準拠～

1 《コート》

コートの大きさは、7mと10mの区画線に囲まれたものとする。



2 《ハーフライン》

センターラインから2.5m離れた地点に、センターラインに平行しておのこのコートを2等分する。

3 《ネットの高さ》

2m10cmとする。主催者の決定によりこれを変更することができる。

4 《ボール》

ビニールボール（秋田県スポーツ推進委員連絡協議会推薦ボール）とする。

5 《チームの競技者および交代競技者》

- ① チームは6名の競技者と4名以内の交代競技者からなる。競技者の内1名は主将であることを要し、主将が交代競技者と交代する場合は代理主将を定めなければならない。
- ② 交代競技者および監督は、各エンドライン後方の定められた箇所に位置する。
- ③ 競技者の交代は、主審か副審のいずれかに対して監督または主将の要求によって行われる。ただし、競技が停止しているときに限る。
- ④ チームは1セットにつき交代競技者の数を限度として交替が許される。1度コート外に退いた競技者は同一セットに再び復帰することはできない。

6 《競技者の位置》

- ①サービスのとき、両チームの競技者はおののこのコートに、ハーフラインを境に3人ずつ2列に配置する。ネットに沿って位置する3人は前衛であり、そのほかは後衛である（サーバー含む）。
- ②サービスの直後、各競技者は前衛・後衛のそれぞれの範囲内を自由に行動することができる。

7 《競技者位置およびサービス順の誤り》

- ①その競技者のサービス中に発見されたときは、その競技者のサービス中に得たポイントこれをカウントせず、サイドアウトを宣言し、同時に相手チームに対し1点を記録する。
 - ②サイドアウトの後、相手方チームのサービス開始前に発見されたときは、その競技者のポイントはカウントせず、相手チームに対して1点を記録する。
 - ③相手方チームのサービス開始後発見されたときは、その競技者のサービス中に得たポイントは有効として試合はそのまま続行される。
- ※①②③とも、ポジションは正しい位置に変えること。

8 《1試合における競技セット数》

- ①試合は3セットマッチでおこなう。
- ②1セットは、ラリーポイント15点先取制（デュースなし）とする。
- ③3セット目に限り11点先取制（デュースなし）とする。

9 《コートとサーブ権》

- ①試合開始前、主将はコートを選ぶか最初のサーブ権を選ぶかについてトスを行う。トスに勝ったチームの主将はそのいずれか一方を選択する。
- ②コートはセット毎に交替する。

10 《競技の中断》

- ①各チームは、セット毎に1回のタイムアウト（30秒）を取ることができる。
- ②各セット間には、2分以内の競技停止時間が許される。

11 《サービス》

- ①サービスは、一度味方のだれかに打ち渡し、サービスを含めて3回以内で相手コートに入れなければならない。
- ②サービスボールが次のような状態になったときには、サービス権を失い相手側チームに1点を与える。
 - i) ボールが直接相手側コートに入ったとき
 - ii) ボールが直接ネットに触れたとき
- ③次のセットのサーブは前セット終了時の反対側チームが行う。最初のサーバーは、前セットの最後のサーバーの次の順位にあるものとする。
- ④サービスのネットインは無しとする。

12 《ローテーション》

サービス権を得たチームは、直ちに時計の針と同じ方向に位置を1つずつ移動する。（セット終了まで同じ）

13 《打球》

- ① 1 チームは、ボールを相手コートに返すため、味方チーム内で最大限3回プレーすることができる。ただし、ネット上を利用した場合は4回以内とする。
- ② プレー中は、腰より上のどこでボールを打ってもよい。
- ③ 1回ボールに触れた競技者が、他の競技者がそのボールに触れる前に再び続いて身体はどこかに触れた場合は、ドリブルとみなす。ブロッキングした後、同一人が続いて再び触れた場合も同様にドリブルとみなす。
- ④ ボールが競技者の手や腕に静止したときは、ホールディングとみなす。ボールをすくったり、持ち上げたりするプレーも同様にホールディングとみなす。

14 《ネットに関係あるプレー》

- ① 競技者は、ボールがインプレーの状態にあるとき、身体または衣服のどの部分もネット（アンテナ等を含む）に触れてはならない。
- ② ボールがネットに触れた場合に限り、競技者はもう1度ボールに触れることができる。ただし、同一競技者が連続して3度以上プレーしてはならない。

15 《センターラインおよびハーフライン》

競技者の身体のどの部分でも、センターラインやハーフラインを越えて相手方コートや、前衛が後衛のコートまたは後衛が前衛のコートに触れてはならない。ただし、足に関しては、各ラインに一部が触れていれば反則とはならない。
(空間における想像延長線上に足の一部があると認められる場合も同様に解する)

16 《ポイントおよびサイドアウト》

次の場合、チームはサーブ権を失い、相手チームに1点を与える。

- * ボールが床に触れたとき
- * ボールがアウトオブバウンズになったとき
- * ホールディング
- * ドリブル
- * オーバーネット
- * タッチネット
- * インターフェア
- * オーバータイム
- * チームがサービス時に定位置を誤ったとき
- * センターラインやハーフラインの反則をおかしたとき
- * 意識的にゲームを遅滞させたとき
- * 不法な競技者交替を行ったとき
- * 主審の許可を得ずコートを離れたとき（セット間を除く）
- * サービスに関する誤りをおかしたとき